



学校教育目標 進んで学ぶ子 仲良くできる子 たくましい子  
児童数 男子489名 女子477名 計966名

㊦っかりと聞き・㊦くわく未来を語り・㊦すんで学び・㊦れにも仲良くできる しわすだっ子



## 問題に向き合う心をはぐくむ

～ やさしく 深く おもしろく ～

校長 石井 宏明

### むずかしいことをやさしく やさしいことを深く 深いことを面白く

作家の井上ひさし氏の有名な言葉です。

「やさしく 深く 面白く」と、わずか11文字ほどの言葉ですが、このように受け取ってもらおうよう話をする事は容易ではありません。

「やさしく」話すということは、相手が小学生だからといって、安易な話題や内容を扱うといくことではありません。

また、「面白い」を辞書(広辞苑)で引いてみると、①気持ちが晴れるようだ、愉快、楽しい ②心を惹かれるさま、趣向が凝らされている、とありました。一説には、「目の前が明るくなる感じを表す」とも。

つまり、「面白い授業(話)」とは、子供たちの「目の前が明るくなる授業(話)」となるわけですので、私たち教職につく者としては、最高の誉め言葉ということになります。

さて、本年度の目指す学校像に「みんなが(自主・創造)」を挙げ、「主体性」「主体的に学ぶ児童」をはぐくむよう取り組んできておりますが、その際、私はいくつかの具体的な児童の姿を思い浮かべます。

例えば、自ら問題を感じ取る児童であり、問題を観察する児童であり、問題を正しく理解しようとする児童です。さらに言えば、問題を見過ごさない児童であり、問題に働きかける児童であり、一連の問題解決の過程から学ぶ児童です。

つまり、「問題に向き合う(素直な)心」と言えると考えます。この「問題に向き合う(素直な)心」をもった児童を育てることは、本校の学校教育目標を実現する基盤として極めて重要なことだと考えております。

なぜならば、「目標」は、児童一人一人の問題に対する気づきや理解が背景となるからです。こうした資質・能力や態度等は、学習指導をはじめとする様々な学校生活場面を通して育てていくこととなります。その際、以下の4つの点に留意することが大切だと考えております。

- 1 見つめる … 問題をよく観察し、正しく理解すること
- 2 考える … 問題に背を向けず、解決の計画や方法を考えること
- 3 実行する … 問題に積極的に働きかけ、ねばり強く実行すること
- 4 深める … 取り組みを振り返り、有用感をもち活用すること

本日の始業式をはじめ、全校朝会(オンライン)や行事の際の校長あいさつでも、聞き手としてのしわすだっ子は大変優秀です。

校長であっても、準備を怠り、行き当たりばったりの話をすれば、静かに聞いてはいるものの、その反応は冷ややかなものになるに違いないとぞっとします。

反対に、子供たちの前向きな好奇心やたくましい想像力を喚起するような話ができれば、その瞳は輝きを増し、全身で話を受け止めて、すぐにでも行動に移してくれています。

しわすだっ子が、澄んだ心で話を聞き、問題と向き合い、考え、実行したいと思えるように、やさしく・深く・面白く伝えられるよう、第2学期も頑張っていきます。(なかなかうまくできませんが…)